ガタガタガタッ！キャアアアア！ドドドドドッ！揺れる音、人の必死な叫び声。そして地響きのような波の音…。

ハッ。目が覚めると、目の前には炊き出しの準備をしている人。水を汲んできている人。食い入るように画面を見つめ、今か今かと連絡を待っているような人。寝ぼけた頭が一気に冴えた気がした。みんな不安そうな顔で、落ち着きなく過ごしていた。

私の「あたりまえ」の日常が壊されたのは昨日のことだった。6時間目、いつものように授業を受けていたとき。最初は小さく「カタカタカタッ」と揺れた。そして放送が入ると、揺れが大きくなっていった。「ガタガタガタッ！」必死に机の下に体をねじ込んだ。ガラスが割れる音、モノが落ちる音。それらの音が私を恐怖に陥れた。揺れがおさまり、放心状態だった私は先生の声ではっと我に返った。私の学校は高い位置にあるため、校庭に出てそのまま待機した。直後襲ったドドドド

20 × 20

ドッという音。まるで地響きのような波の音

私はまた恐怖で体を縮こませた。そのあと、

地域の避難所にもなっている体育館に移動したのだろうが、私は頭が真っ白であまり記憶になかった。ちなみにこの地震はマグニチュード9.0で、私の地域の津波は高さ14mだった。

最高では40mにもなった場所があったらしい。

そして今日になり、私はスマホを確認した。

来ていない。昨日から家族と連絡が取れないのだ。「大丈夫？」既読にならない私のメッセージ。言いようのない焦りや余震などへの恐怖が私の体をうめつくしていく。そのとき。

「ピコッ」画面を見る。「こっちはみんな大丈夫だよ。弟2人も迎えに行きました。今からそっちに行くね。」母から届いたそんなメッセージに私は心の底から安堵した。私はスマホを置いて立ち上がる。私も手伝わなくちゃ。

私は、炊き出しの準備をしている地域の人に「何か手伝えることはありませんか。」と聞いた。「そうだなあ。じゃあ、配る係をしても

らってもいいかな？」「わかりました。」この学校は避難所ということでちゃんと保存食が備わっていた。ご飯を紙皿についで持っていく。今思えば、軽い気持ちで取り組んでいた防災訓練。準備をしておかないとと思いながら結局準備していない防災グッズ。それらがどれだけ大切なものか、今になって痛感する。まずは、この状況を乗り切らなければならない。そして、あたりまえに授業ができて、あたりまえにおいしいご飯が食べれて、あたりまえにお風呂に入れて…。そんな日々が取り戻せたらそのときは、防災訓練に真剣に取り組もう。防災グッズをちゃんと準備しよう。あたりまえに訪れる「明日」に感謝しよう。一つ一つの幸せを大切に生きていこう。私は昨日今日、「あたりまえ」の素晴らしさというものを知った。

「はい、どうぞ！」私は自信に満ちた笑顔で炊き出しのご飯を手渡した。

20 × 20